

平成30年9月6日午前3時7分「胆振東部地震」による、全道ブラックアウトの経験から2年が過ぎようとしています。全電源喪失。発電・送電網というインフラの大切さに目を開かれ、電気生活の恩恵を受ける道民の防災意識が深まりました。被災地では完全な復興に向けて今なお奮闘中と伺っています。

あの日、自宅から役場に向かう私は、家を出て街頭の消えた闇の中で、満点の星空に目を奪われました。その横を朝刊の配達員さんがわき目も振らず働いていました。電気が不通になった真の闇の中で、ひと時大宇宙の環境の中で暮らしている私たち人間の根本的な在り方に気付くように揺さぶられた気がします。あの地震を思い返す時、満天の星空の美しさがしみじみと思ひ起こされる方も多いのではないのでしょうか。災害大国日本では、近代的な防災意識や心構えの腹の底に、大自然への畏敬の念や感謝と美意識もまた深く懐に忍ばせていたと思います。

町長 田中一史

モーター突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.16



季節も秋へと移り、様々な文化系サークルが活動を始めています。今回はその中から陶芸クラブの活動に参加させていただきました。



陶芸クラブは昭和49年に創立。歴代のメンバーが受け継いできたノウハウを生かしながら作品を仕上げ毎年文化祭に出展しています。

陶芸はほとんど経験がない僕ですが会員の皆さんから丁寧に教えていただき湯のみを形成するところまで体験させていただきました。

まずは粘土を柔らかくしていきます。



そのままの粘土では形を形成するには硬いため、水を足しながらひたすら練っていきます。会員の熊木信子さんに円を描くようにというアドバイスをいただきながら力を込めて粘土を柔らかくしていきます。

次は形を作っていきます。湯のみを作するため、ろくろを使わせていただきました。ろくろといえば陶芸の醍醐味。陶芸クラブでは電動のろくろを使用していて初心者でも扱うことができます。まずはこれまでたくさん作品を作ってきた谷口由美子さんに実際の作業を

「陶芸クラブ」



見せてもらいながらレクチャーを受けました。粘土を綺麗に均等な丸にし、中心から穴をあけてゆつくりと広げていきます。先ほどの粘土を練る作業と違い今度は手に力を入れてはいけません。力が入ってしまうとグニャツと形が崩れてしまいます。また、手の動きはずっと均一にゆつくりと。急に動きを速めると厚さにムラが出てしまいます。心を落ち着かせて何度も同じ作業を繰り返す。これがとても重要なことだと伺いました。交代して自分でもやってみると想像通りにはいかず失敗を繰り返しながらなんとか湯のみの形にすることができました。心を落ち着かせて集中し、自分の世界に入ることによって自分自身と向き合うことができたと思います。このような陶芸ならではの経験をさせていただきありがとうございました。

